

たまねぎレポート【第371号】



平成30年9月27日

阪南青果株式会社

社 内 報

8月の月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高く、北・東日本では平年並みだった。降水量は、東日本の日本海側でかなり多く、西日本の太平洋側で多かった。沖縄・奄美では少なかった。北・東日本の太平洋側と西日本の日本海側では平年並みだった。日照時間は、北・東日本の太平洋側でかなり少なく、日本海側で少なかった。沖縄・奄美ではかなり多かった。西日本は平年並みだった。7日には台風5号が和歌山県北部に上陸して、9日に山形県沖で温帯低気圧になった。9月は、4日に台風21号が神戸に再上陸、関西地方に大きな爪痕を残した。6日には北海道東胆振地震が発生し、山崩れや液状現象など大きな被害をもたらした。気象庁が発表した10～12月の3か月予報では、この期間の平均気温は、北日本で平年並みまたは高い確率ともに40%、東・西日本と沖縄・奄美は50%。降水量は、東日本の太平洋側と西日本で平年並みまたは多い確率ともに40%。

10月、天気は全国的に数日の周期で変わり、北日本の太平洋側は平年と同様に晴れの日が多い。西日本と沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多い。

11月、北日本の日本海側は、平年と同様に曇や雨または雪の日が多い。北日本の太平洋側は、平年と同様に晴れの日が多い。東日本の日本海側は平年と同様に曇や雨の日が多い。西日本の日本海側は、平年に比べ曇りや雨の日が多い。東西日本の太平洋側は平年に比べ晴れの日が少ない。沖縄・奄美は、期間の後半は平年と同様に曇や雨の日が多い。

12月、北日本の日本海側は、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。東日本の日本海側は平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。西日本の日本海側は、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い。北・東・西日本の太平洋側は、平年と同様に晴れの日が多い。沖縄・奄美は平年と同様に曇りや雨の日が多い。

主要(市場)の動き

野菜の概況

8月の建値市場の野菜の入荷は、217,294トン前年比94%で、総じて品薄傾向で相場は堅調に推移した。7月の豪雨に続く猛暑と8月の北海道の低温、多雨、寡照が野菜の生育に大きく影響し、入荷減を招いた。平均単価はいずれの市場も前月に続き前年を20%前後上回った。市場別の入荷と平均単価は、札幌市場の入荷は前年比90%、平均単価はkg¥224で前年比126%。東京市場は前年比95%の入荷で、平均単価はkg¥290前年比111%。名古屋市場は前年比99%の入荷で、平均単価はkg¥265前年比116%。大阪本場は前年比98%の入荷で、平均単価はkg¥278前年比121%。福岡市場は前年比89%の入荷で、平均単価はkg¥228前年比119%となっている。

建値市場の8月の玉葱販売量は、23,660トン前年比94%で、名古屋市場以外は前月に続き減少傾向が続いた。平均価格はいずれの市場も前年を大き

く上回った。市場別の入荷量と平均価格は、札幌市場の入荷は前年比86%で、平均単価はkg ¥97前年比137%。東京市場の入荷は前年比98%、平均単価はkg ¥112前年比127%。名古屋市場の入荷は前年比114%、平均単価はkg ¥107前年比127%。大阪本場の入荷は前年比97%、平均単価はkg ¥110前年比129%。福岡市場の入荷は前年比55%、平均単価はkg ¥113前年比105%となっている。

日本農業新聞社の集計では、全国主要7地区の代表荷受7社の8月の主要野菜14品目の販売量は、98,220トン前年比2%減(前月比9%増)、平均単価はkg ¥163前年比21%高(前月比7%高)となっている。北日本の低温と日照不足、関東以西の高温旱魃で野菜の生育が停滞し、入荷減となった。販売量が前年比増の品目は、タマネギが前年比18%増、サトイモが14%増、ダイコンが6%増など3品目。前年比減の品目は、ホウレンソウが前年比22%減、キュウリが15%減、ピーマンとニンジンが10%減など10品目。価格が前年比高の品目は、ニンジンがkg 117で前年比92%高、ピーマンがkg ¥494で58%高、ハクサイがkg ¥108で38%高など12品目。前年比安の品目は、サトイモ1品目のみでkg ¥337で前年比14%安である。

東京都中央卸売市場の8月の野菜の入荷は、118,693トン前年比95%(前月比101%)、平均単価はkg ¥290前年比118%(前月比108%)で、堅調に推移した。主要15品目で入荷が前年を上回った品目は、サトイモが前年比110%、キャベツ・ナスが107%、ハクサイが104%など4品目。前年を下回った品目は、バレイショが前年比82%、ニンジン・ダイコンが比85%など11品目。販売単価が前年比高であった品目は、ニンジンがkg ¥137で前年比193%、ハクサイがkg ¥126で144%、ピーマンがkg ¥545で140%、ダイコンがkg ¥116で137%など12品目。前年比安の品目は、サトイモがkg ¥384で前年比87%、レタスがkg ¥153で91%バレイショがkg ¥117で94%など3品目となっている。当社に関係の深い品目の一覧表は次の通り。

東京都中央卸売市場の8月の入荷量と単価

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	前月比 (%)	単 価 (¥/kg)	前年比 (%)	前月比 (%)
野 菜 総 数	118,693	94.7	100.8	290	117.0	107.8
た ま ね ぎ	9,933	97.7	110.9	112	127.4	119.2
キ ャ ベ ツ	17,527	106.9	113.3	100	121.2	98.0
レ タ ス	9,764	96.1	99.7	153	90.8	102.7
だ い こ ん	8,017	85.2	112.2	116	136.9	95.9
き ゆ う り	7,605	98.9	102.1	374	122.2	105.4
ト マ ト	7,464	90.1	91.5	440	132.5	132.1
は く さ い	7,209	104.1	107.0	126	144.0	168.0
に ん じ ん	6,478	85.1	110.1	137	193.2	94.5
ば れ い し ょ	5,139	81.7	94.4	117	94.0	160.3
ね ぎ	3,811	97.9	106.7	387	111.7	113.8
か ぼ ち ゃ	2,055	73.6	92.6	302	140.4	131.9
な が い も	956	110.2	89.5	409	83.1	118.6
に ん に く	268	103.9	108.9	1,025	96.8	108.7
れ ん こ ん	551	109.6	199.6	522	89.1	78.5

玉葱の概況

東京市場

東京都中央卸売市場の8月の玉葱の入荷量は、8,958トン前年比98%（前月比111%）で前年比微減、前月比増となっている。主力は兵庫物から北海物に移行、北海物の入荷は4,876トン前年比101%、占有率49%で前年比1ポイントアップ。兵庫物は、2,995トンの入荷で前年比108%、占有率3

0%で前年比3ポイントアップ。佐賀物は、1,115トンの入荷で前年比81%、占有率は11%で前年比2ポイントダウン。月平均価格はkg¥112前年比127%(前月比119%)で、兵庫物がプライスリーダーとなった。旬別では、上旬がkg¥118、中旬がkg¥114、下旬がkg¥106で北海物のウエイトの上昇につれて平均単価は値下がりがした。産地別では、北海物はkg¥106で前年比126%、兵庫物はkg¥129で前年比129%、佐賀物はkg¥111で前年比129%となっている。

9月に入り、台風21号や北海道地震の影響で、野菜の生産流通に大きな影響があり、玉葱の需給にも大きく影響した。出荷が最盛期を迎えた北海物の収穫が、8月下旬からの天候不順で後ズレしたのに加え、6日の地震で全道的な停電が発生し、出荷が中断し、市況は予想外の高値が続いた。月半ばには入荷は増加傾向となったものの、乾燥不良で品質的には今一つであったが、野菜全体が品薄状態であったことで、高値を維持した。此処に来て入荷は安定し、相場は軟化傾向にある。上旬の入荷は、2,884トン前年比82%、平均単価はkg¥111前年比138%。北海物は、2,247トンの入荷で前年比70%、平均単価はkg¥110前年比139%。中旬の入荷は3,573トン前年比106%、平均単価はkg¥110前年比138%。北海物は3,233トンの入荷で前年比104%、平均単価はkg¥111前年比146%となっている。

名古屋市場

名古屋市中心卸売市場の8月の玉葱の販売量は、4,638トン前年比114%(前月比103%)で、前年比、前月比とも増であった。主力は兵庫物から北海ものに移行。北海物の販売量は、2,584トン前年比136%、占有率は56%で前年比9ポイントアップ。兵庫物の販売量は1,799トン前年比103%、占有率は37%で前年比6ポイントダウン。愛知物は94トンの販売量で前年比59%、占有率は2%で前年比2ポイントダウン。平均単価はkg¥107前年比127%(前月比123%)で、堅調に推移した。産地別の月平均価格は、北海物が

kg ¥ 99前年比121%。兵庫物がkg ¥ 122で前年比134%、愛知物がkg ¥ 90で前年比115%となっている。

9月に入り、北海物の入荷増を期待していたが、地震の影響で不安定な入荷が続いたが、市況に変化はなく保合状態が続いた。兵庫の即売物の入荷は第2週で終了し、冷蔵物に切り替わったが、関西市場が高く追隨に苦勞した。月半ばになっても、北海物の入荷は予想を下回り、市況は堅調を維持した。此処に来て、北海物の入荷は順調で、L大 ¥ 2,000の維持は難しくなっている。兵庫物は割高で引きは弱く動きは鈍い。

大阪本場

大阪市中央卸売市場本場の8月の玉葱の入荷量は、3,184トン前年比97%(前月比110%)で、北海産の出荷が後ズレしたことで、引き続き兵庫産主力の販売となった。主力の兵庫(淡路)物の入荷は1,926トン前年比93%、占有率は60%で前年比3ポイントダウン。北海物は551トンの入荷で前年比74%、占有率は17%で前年比6ポイントダウン。和歌山は335トンの入荷で前年比298%、占有率は11%で前年比8ポイントアップ。佐賀、長崎、大阪などの入荷も前年比増となった。月平均単価はkg ¥ 110前年比129%(前月比118%)で堅調に推移した。産地別の平均単価は兵庫物がkg ¥ 126で前年比137%、北海物がkg ¥ 103で前年比132%、和歌山物がkg ¥ 68で前年116%となっている。

9月始めは、兵庫物は給食向けの需要で、2L、Lの引き合いが強まり強含んだ。北海物は、小粒傾向で、2L、L大が少なく弱含みの動きであった。また、台風の接近・上陸予報から、売り手買い手しなうすともに様子見状態であった。今年の北海物は乾燥不良で、いずれの銘柄もカビが発生し、棚もちには難があった。然し、4日には、台風21号が大阪湾を北上し神戸に上陸。関西地方は近年にない風水害に見舞われ野菜の入荷が中断した。6日には、北海道の地震で輸送が麻痺。玉葱も入荷が少なく品薄高に転じた。中旬に入り、輸送の回復に

に伴い、北海物の入荷が順増し相場は軟化した。此処に来て、入荷は正常化し、兵庫・北海物ともに値下がり傾向にあるものの、価格は前年比5割高の高値にある。大阪市場の1～20日までの入荷は2,805トン前年比111%、平均単価はkg¥118前年比153%。北海物の入荷は前年比100%、平均単価はkg¥107前年比151%。兵庫物の入荷は前年比135%、平均単価はkg¥142前年比148%となっている。

福岡市場

福岡市中央卸売市場の8月の玉葱の販売量は、1,837トン前年比55%（前月比86%）で、引き続き減少傾向で前年比・前月比ともに減となった。主産地佐賀が病害の影響で切り上がり早く販売減となったことや、北海物は天候不良で収穫・出荷が後ズレしたことが影響した。主力の佐賀物の販売量は800トン前年比69%、占有率は44%で前年比9ポイントアップ。北海物は378トン前年比51%、占有率は21%で前年比1ポイントダウン。長崎物は300トン前年比48%、占有率は16%で前年比3ポイントダウン。平均単価はkg¥113前年比106%（前月比130%）で、品薄高傾向が続いた。産地別の平均単価は、佐賀物がkg¥104で前年比94%。長崎物はkg¥113前年比109%。北海物はkg¥131前年比144%となっている。

9月に入って、佐賀、長崎物が一部を除き終了し、北海物の順調な入荷を期待していたが、台風21号と北海道地震の影響で、入荷が中断し品薄状態が続いた。直送品の入荷が期待出来ず、手持ちのある商系や転送屋を通じて掻き集めたものの、品不足は解消されず品薄高が続いた。今週に入り北海物の入荷は増加傾向にあり、北海物主力に佐賀、長崎、愛媛物を併売している。高値続きで荷動きは鈍化傾向にあり、入荷が復旧し正常値で販売出来る日の早いことを願っている。1日～20日の販売量は1,426トン前年比59%、平均単価はkg¥126前年比117%となっている。

9月25日(火)の建値市場の玉葱市況は次の通り

【札幌市場】 入荷 275トン、保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000~1,550、L大 ¥2,000~1,600、L ¥1,700~

M 入荷なし

北 海 20kgNT2L ¥1,350~1,300、L大 ¥1,600~1,550、L ¥1,500~1,400、

M ¥1,250~ 850。

【太田市場】 入荷527トン、保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000~1,800、L大 ¥2,000~1,800、L ¥1,700~1,600、

M ¥1,500~1,400。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,400~1,300、L ¥1,400~1,300、M ¥1,200~1,100。

【名古屋北部】 入荷202トン、保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000~1,900、L大 ¥2,000~1,900、L ¥1,800~1,700、

M ¥1,500~

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300~1,200、L ¥1,300~1,200、M ¥1,100~1,000。

【大阪本場】 入荷203トン、弱保合

北 海 20kgDB2L ¥2,000~1,800、L大 ¥2,000~1,800、L ¥1,800~1,700、

M ¥1,600~1,500。

兵 庫 10kgDB2L ¥1,300~1,200、L ¥1,300~1,200、M ¥1,100~1,000

【福岡市場】 入荷170トン、弱い

北 海 20kgDB2L ¥2,400~2,000、L大 ¥2,400~2,000、L ¥2,000~1,800、

M ¥1,800~1,600。

佐 賀 10kgDB2L ¥1,400~1,300、L ¥1,400~1,300、M ¥1,200~1,100。

長 崎 10kgDB2L ¥1,400~1,300、L ¥1,400~1,300、M ¥1,200~1,100。

供給(産地)の動き

府県産地の即売物の出荷は、殆ど終了し、主力は冷蔵物に切り替わっている。冷蔵物の主力は兵庫(淡路島)で、入庫は前年比104%弱と言われている。その他の地域は前年並みの予想で、全国集計は9月末～10月初旬になる。静岡、長崎産地の極早生は、苗立ち順調で10月から定植が始まる。佐賀、兵庫は一部で播種が始まっているが、最盛期は10月になる。

北海道産地では、天候不順で生育・収穫が遅れたことに加え、6日の東胆振地方を震源とする強い地震で、輸送に支障が生じた。亦、発電所の被害で全道的な停電が続き、出荷作業も中断し、月前半の出荷は減少した。月後半は正常に復し、順調な出荷が続いている。

輸入は、北海道産の生産減の情報を受けて、関係者は商機を窺っているが、今のところ、中国以外は成約が進んでいない。

府県産地

中晩性の主力産地である兵庫(淡路)では、北海産の生育・出荷の後ズレで8～9月の市況が予想外の高値となり、出荷は前進化したほか、冷蔵入庫を即売に振り替えた物が多くなった。8～9月の市況高は生産者の懐を潤した。冷蔵入庫は協会の調査では、9月6日現在淡路物の入庫は21、180トン(前年比103%)と報告されている。盆前に比べ262トンの減少で、通常盆明けにはかなりの入庫があるが、今年は盆明けの出荷が多い。淡路島では、台風20号で多少の被害はあったものの、21号では被害がなく、現在は、市況軟化で出荷はスローダウンしている。既に彼岸明けから次年度産の播種が始まっている。

佐賀では、即売物の出荷終了で、9月の市況高で冷蔵物が一部出荷されている。既に次年度の播種期を迎えているが、天候が定まらず、作業は台風24号の通過待ちの状態である。近年、春のベト病被害に悩まされて、作型は早生種に編重しているが、最近、ベト病の感染抑制に効果的な薬剤が開発され、次年度の効果が期待されている。

北海道産地

8月下旬の天候は、多雨寡照で早生系の生育・収穫の後ズレが回復せず、9月に入ってからも天候不順で、収穫は更に遅れた。その上、6日には胆振地方を震源とする強い地震が発生し、山崩れや液状現象を始め、全道的な停電に見舞われ、出荷は中断した。現在も未収穫の圃場があり、中晩性の収穫も遅れている。作柄予想は、人それぞれに観点の違いがあり、まちまちである。私見では、9月上旬に産地をひと回りした時点で、オホック管内は平年作、上川・空知・石狩地区は不作と予想した。当社関連会社の直近の球流れを見ると、2L、L大が44%（前年56%）、L・M・Sが34%（前年25%）、外品22%（前年19%）と大きく落ち込んでいる。亦、全道的に晴天が少なく、多湿で病害が散見され商品化率の低下を懸念している。

外国産地

8月の輸入は速報値で、23,314トン前年比93%（前月比110%）となっている。国別では中国が22,753トン前年比91%。アメリカが304トン前年比1,322%、主力は赤玉（レッド）である。オーストラリアが180トン前年比123%。ニュージーランドが77トン前年比99%。となっている。

中国、主産地は甘粛省に移行。収穫は終盤に入っているが、作柄は平年作を下回ると報告されている。内陸運賃の上昇などで、日本向け価格も値上がりしている。現在価格は、剥き玉20kg・C&F・\$7.50～7.60の水準にある。

アメリカ、この夏は高温続きで、早生種は小粒傾向だが、晩生種は豊作となった模様。現在、国内マーケットは50㍍・\$6.00～5.50。日本向けはC&F・Jサイズ\$11.00。SJサイズ\$10.75。Mサイズ\$10.25。赤玉は\$20.00である。

10月の市況見通し

天候不順で、収穫・出荷が後ズレしていたことに加え、台風と地震による自然災害で、出荷が中断・停滞し、9月は品薄高相場が続いていたが、

10月の輸送環境は通常に戻るし、産地はいずれの地区も一部を除き収穫はほぼ終了しており、10月は風乾と粗選別に追われる。今年为天候は湿気が多く、8～9月の出荷は乾燥不品が続出したものの、市場は品薄で高値に販売出来たこととで、昨今の軟調市況を眺め、出荷は抑制の動きにある。府県の冷蔵物の主力産地の淡路島では、最近の値下がり相場を眺め、高値相場の経験が忘れられず、出荷はスローダウンしている。通常、10月は北海物が潤沢に出回り、市況は安定期となるが、今年は生産量の減少を理由に、出荷抑制機能が働き市況の急落はないと予想される。

10月の市況は、軟調傾向を辿るものの急落することがなく、ぢり貧相場となり、中旬の中心相場は20Kg・L大¥1,700～1,600と予想する。(了)